

生徒の資質変容の 定量的評価

分科会2633
名城大学附属高等学校

中間評価 自己評価【成果】

- 1 東海地区のSGH指定校・アソシエイト校を集めての「SGHミーティング」の実施**
外部からの参画：大学教員5名・企業等の人材6名
参加生徒：8校より102名
- 2 「グローバルサロン」・「グローバルリーダー講座」の開催**
グローバルサロン：（H26）7回・参加総数326名 （H27）8回・参加総数290名
- 3 海外研修でのフィールドワーク等の実施**
インドネシア：日本総領事館，マングローブ州立情報センター等
ニュージーランド：トヨタ，JETRO等
アメリカ：パナソニック，JETRO，日系マキラドローラ協会等
- 4 国内でのフィールドワークの実施（*本校でのヒアリング調査・電話取材等は含まない）**
受け入れ企業・機関：34社 ・ 受け入れ回数：40回
延べ参加生徒数：242名（第3学年：平均2回，第2学年：平均5回）
- 5 課題研究論文の作成・発表**
論文：1人1テーマ・10,000字程度 研究発表：日本語1回・英語2回
- 6 学外の研修・フォーラム・コンテスト等への参加生徒の増加**
国際クラス生徒（N=104） 延べ399名
- 7 グローバルパスポートの開発と導入**
生徒の多岐にわたる活動の履歴の管理及び生徒自身が自己の活動を振り返る仕組み
- 8 英語技能の伸長**
TOEIC 第3学年の平均スコアの推移 入学時328.9→卒業時662.7
- 9 SGTの開発による5S5Mの育成**
SGT：情報活用の実践力尺度や共同作業認識尺度，大学教員の助言等を参考に作成
第1学年：平均0.7ポイント上昇（3.5→4.2）
第2学年：平均0.6ポイント上昇（3.6→4.2）

グローバルパスポート



本校事業への参加

フィールドワークへの参加

大学主催事業への参加

プレゼンテーションの実施

学外事業への参加

多読の語彙

海外研修

一斉英単語テストの点数

資格試験

コンテストへの応募・出場

中間評価 自己評価【成果】

- 1 東海地区のSGH指定校・アソシエイト校を集めての「SGHミーティング」の実施**
外部からの参画：大学教員5名・企業等の人材6名
参加生徒：8校より102名
- 2 「グローバルサロン」・「グローバルリーダー講座」の開催**
グローバルサロン：（H26）7回・参加総数326名 （H27）8回・参加総数290名
- 3 海外研修でのフィールドワーク等の実施**
インドネシア：日本総領事館，マングローブ州立情報センター等
ニュージーランド：トヨタ，JETRO等
アメリカ：パナソニック，JETRO，日系マキラドローラ協会等
- 4 国内でのフィールドワークの実施（*本校でのヒアリング調査・電話取材等は含まない）**
受け入れ企業・機関：34社 ・ 受け入れ回数：40回
延べ参加生徒数：242名（第3学年：平均2回，第2学年：平均5回）
- 5 課題研究論文の作成・発表**
論文：1人1テーマ・10,000字程度 研究発表：日本語1回・英語2回
- 6 学外の研修・フォーラム・コンテスト等への参加生徒の増加**
国際クラス生徒（N=104） 延べ399名
- 7 グローバルパスポートの開発と導入**
生徒の多岐にわたる活動の履歴の管理及び生徒自身が自己の活動を振り返る仕組み
- 8 英語技能の伸長**
TOEIC 第3学年の平均スコアの推移 入学時328.9→卒業時662.7
- 9 SGTの開発による5S5Mの育成**
SGT：情報活用の実践力尺度や共同作業認識尺度，大学教員の助言等を参考に作成
第1学年：平均0.7ポイント上昇（3.5→4.2）
第2学年：平均0.6ポイント上昇（3.6→4.2）

生徒の変容を捉える

～を行う（できた）生徒が
〇〇人から〇〇人になった

量的変容・客観的

Aさんが～に
挑戦するようになった

質的変容・客観的
主観的

Bくんが以前よりも
積極的になった

変容を捉える手法

アンケート

内容分析

インタビュー
観察

定量的手法

定性的手法

質的変容を
定量的に捉えてみる

アンケート

: SGT (スーパーグローバルテスト)

内 容：育てたい生徒像に関する因子に関する質問肢
(5S5Mの各因子＋グローバルなキャリア設計への意欲)

質問肢：48問

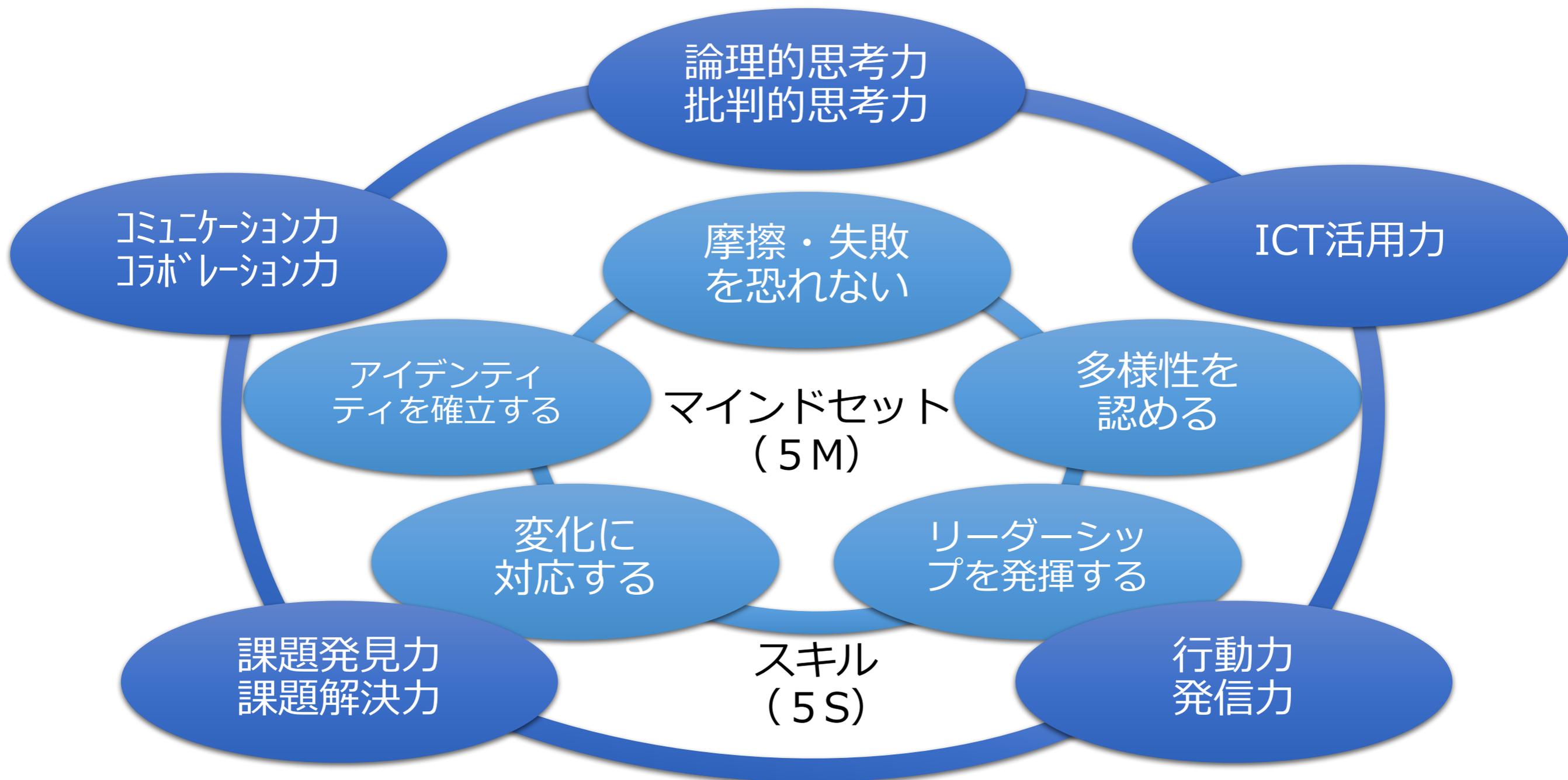
順序尺度：5段階

測定時期：4月・1月

例) 因子：変化に対する姿勢 (対応力)

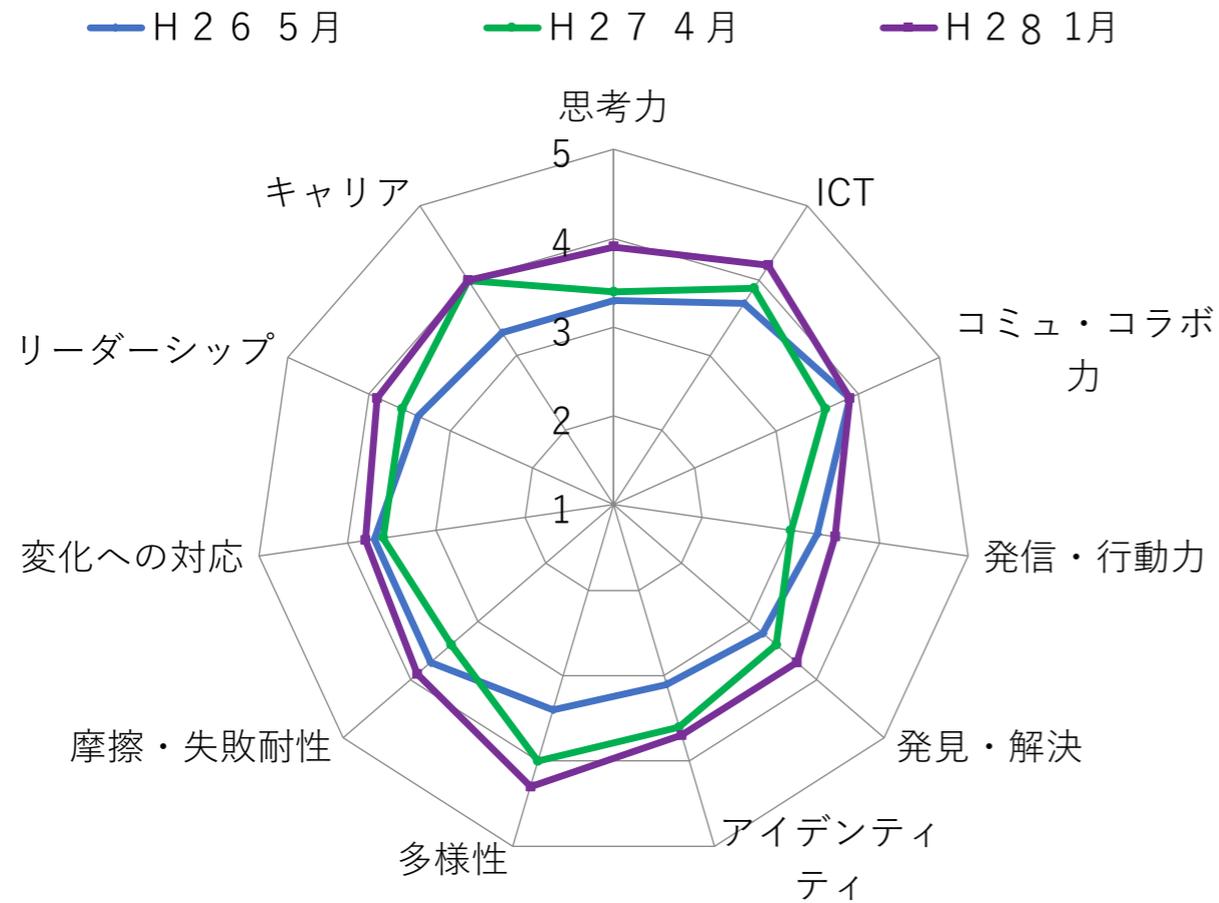
37	想定外のことに對しても、自分なりに對処しようと思う。
38	うまくいかないときは、それまでの考え方ややり方にこだわらず、新たな工夫をする。
39	見知らぬ人や見知らぬ土地のなかでも、積極的に活動していける気がする。
40	はじめての事態や困難な問題にも、しっかり取り組めば對処できる気がする。

5S5M ～5つのスキルとマインドセット～

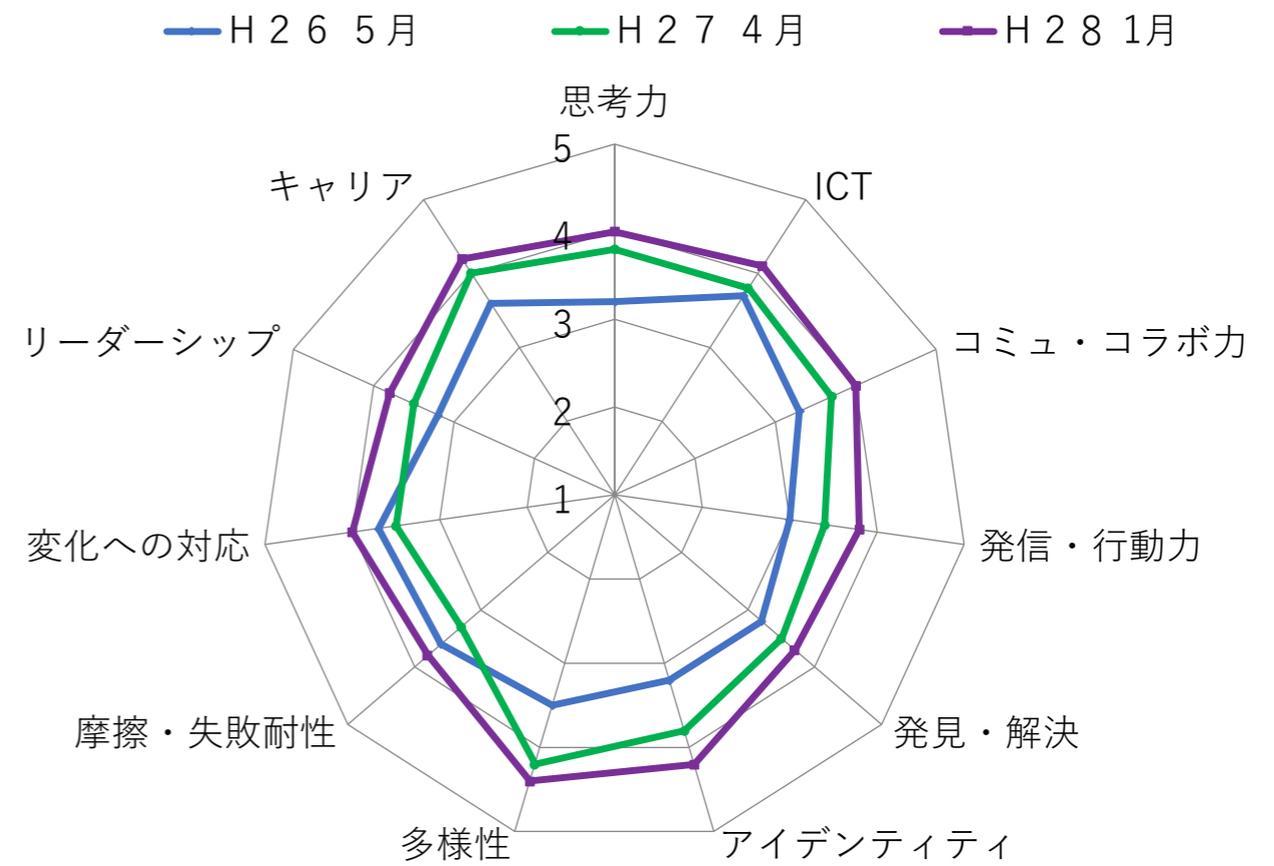


SGT測定結果 1

主対象 第2学年 (N=35)

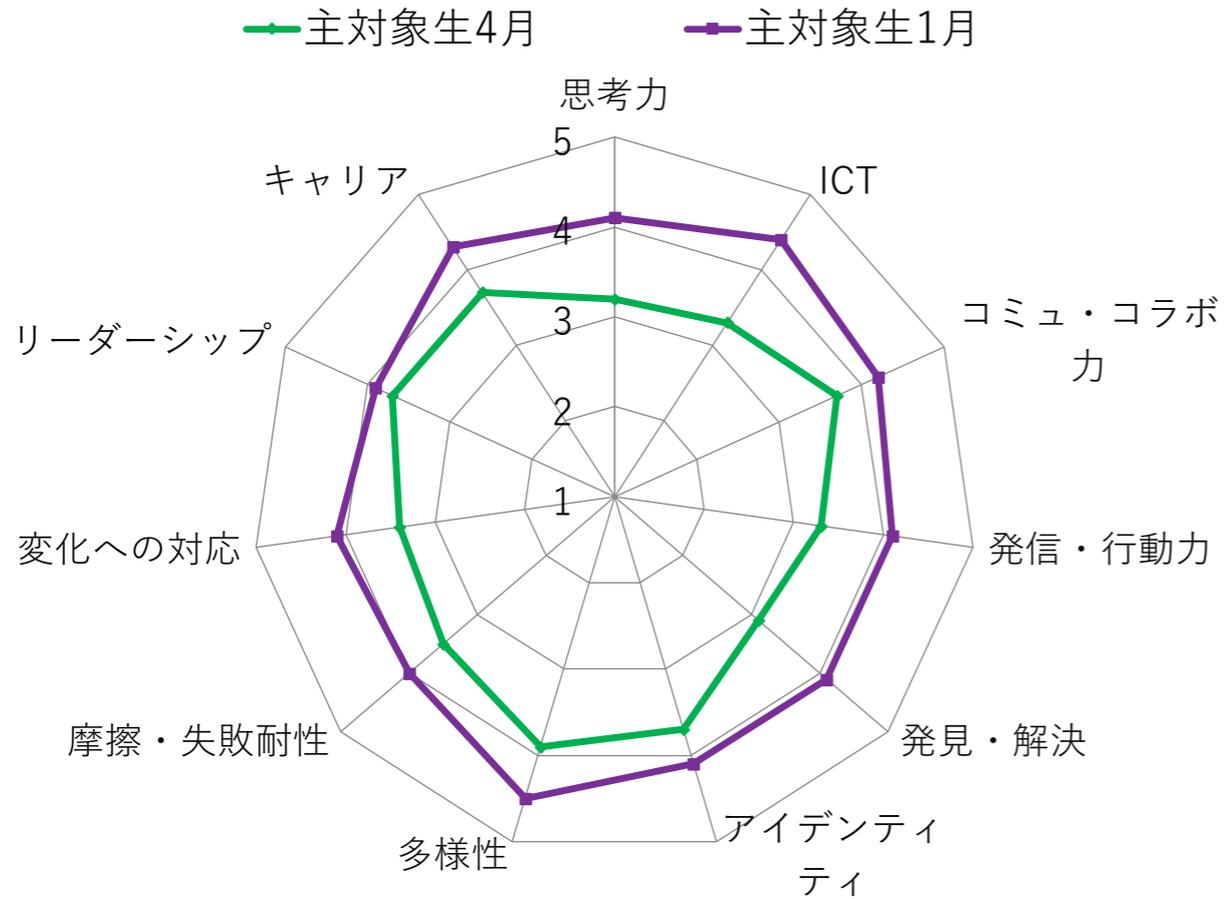


主対象 第3学年 (N=32)

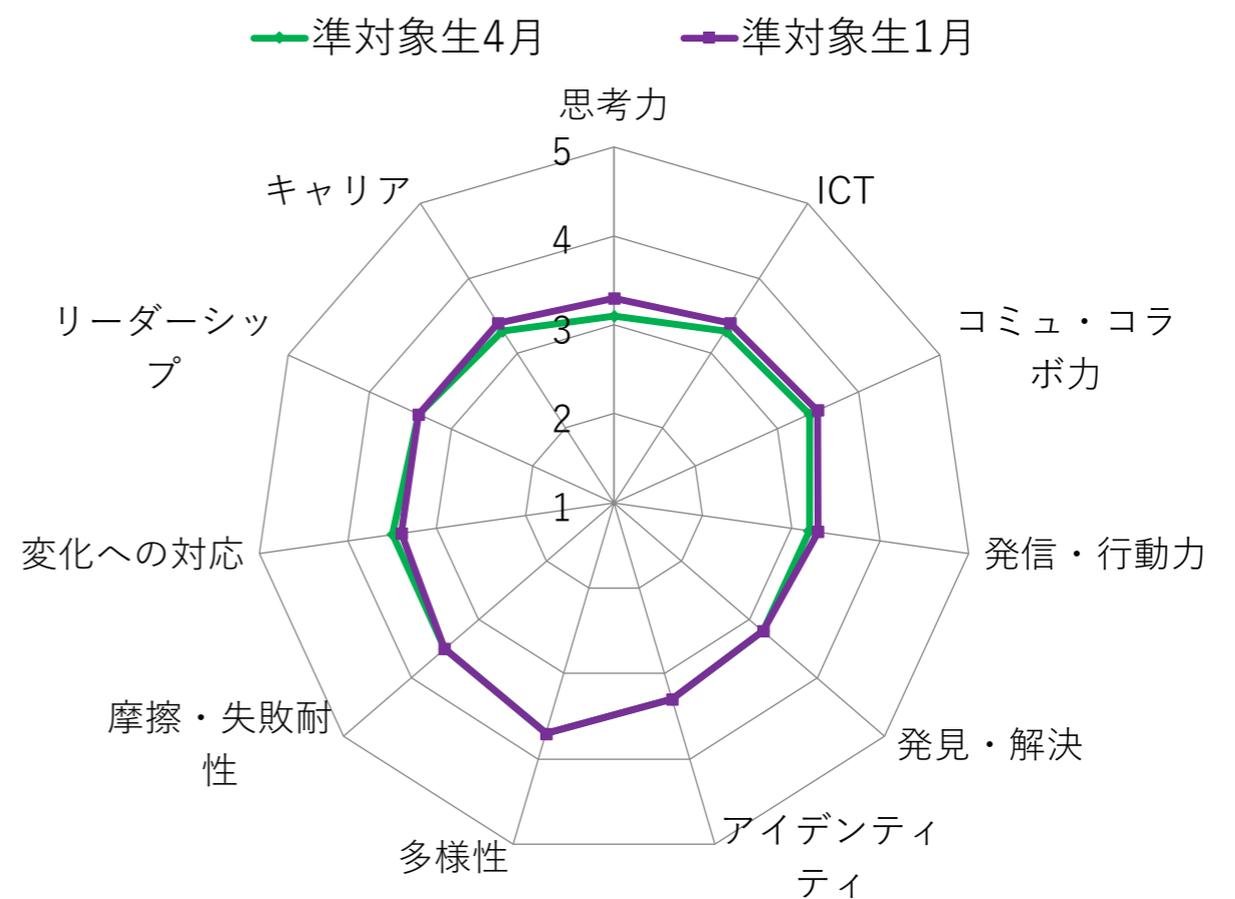


SGT測定結果 2

主対象生 第1学年 (N=38)



準対象生 第1学年 (N=265)



	主対象生 (N=38)			準対象生 (N=265)			4月	1月
	4月	1月	差	4月	1月	差	差 主一準	差 主一準
論理的・批判的思考力	3.1	4.1	1.0	3.1	3.3	0.2	0	0.8
ICT活用能力	3.3	4.4	1.1	3.3	3.4	0.1	0	1.0
コミュニケーション力 コラボレーション力	3.7	4.2	0.5	3.4	3.5	0.1	0.3	0.7
発信力・行動力	3.3	4.1	0.8	3.2	3.3	0.1	0.1	0.8
問題発見力・問題解決能力	3.1	4.1	1.0	3.2	3.2	0.0	-0.1	0.9
アイデンティティ	3.7	4.1	0.4	3.3	3.3	0.0	0.4	0.8
多様性の認識と共感	3.9	4.5	0.6	3.7	3.7	0.0	0.2	0.8
摩擦・批判・失敗への耐性	3.5	4.0	0.5	3.5	3.5	0.0	0	0.5
変化への対応	3.4	4.1	0.7	3.5	3.4	-0.1	-0.1	0.7
リーダーシップ	3.7	3.9	0.2	3.4	3.4	0.0	0.3	0.5
グローバルなキャリア設計	3.7	4.3	0.6	3.3	3.4	0.1	0.4	0.9
平均	3.5	4.2	0.7	3.4	3.4	0.0	0.1	0.8

SGT結果（主対象生と準対象生の比較）

主対象生の探究型学習：S・Mの向上に効果あり

（1）4月時点（平均）

主対象生：3.5

準対象生：3.4 差：0.1ポイント

（2）1月時点

全ての質問項目 主対象生 > 準対象生
差：0.8ポイント（平均）

（3）上昇の度合い

主対象生 > 準対象生

探究学習の時間以外、何が違うのか??

リフレクションラーニング

「無意識」を「意識化」させる
「考えない自己像」から「考える自己像」へ

- 何が自分を育てたのか
- 何がどう変わると次のステップにいけるのか



他者評価 → 自己評価 + 失敗・成功体験
(メタ認知)

	主対象生 (N=38)			準対象生 (N=265)			4月	1月
	4月	1月	差	4月	1月	差	差 主一準	差 主一準
論理的・批判的思考力	3.1	4.1	1.0	3.1	3.3	0.2	0	0.8
ICT活用能力	3.3	4.4	1.1	3.3	3.4	0.1	0	1.0
コミュニケーション力 コラボレーション力	3.7	4.2	0.5	3.4	3.5	0.1	0.3	0.7
発信力・行動力	3.3	4.1	0.8	3.2	3.3	0.1	0.1	0.8
問題発見力・問題解決能力	3.1	4.1	1.0	3.2	3.2	0.0	-0.1	0.9
アイデンティティ	3.7	4.1	0.4	3.3	3.3	0.0	0.4	0.8
多様性の認識と共感	3.9	4.5	0.6	3.7	3.7	0.0	0.2	0.8
摩擦・批判・失敗への耐性	3.5	4.0	0.5	3.5	3.5	0.0	0	0.5
変化への対応	3.4	4.1	0.7	3.5	3.4	-0.1	-0.1	0.7
リーダーシップ	3.7	3.9	0.2	3.4	3.4	0.0	0.3	0.5
グローバルなキャリア設計	3.7	4.3	0.6	3.3	3.4	0.1	0.4	0.9
平均	3.5	4.2	0.7	3.4	3.4	0.0	0.1	0.8

SGT結果（主対象生徒）

- (1) 4月から各因子が平均0.7ポイント上昇
- (2) 4月－1月の差：全ての因子で有意差あり ($p < 0.05$)
1.0ポイント以上上昇
「論理的・批判的思考力」
「ICT活用能力」
「問題発見・解決能力」
- (3) 「リーダーシップ」：0.2ポイントの上昇にとどまった。

なぜこのような結果になるのか??

リフレクションラーニングを踏まえて 何が生徒を育てたかを捉える

● 成長実感の要因分析 1 要素を分解してのアンケート

例) 「問題発見能力・問題解決能力」

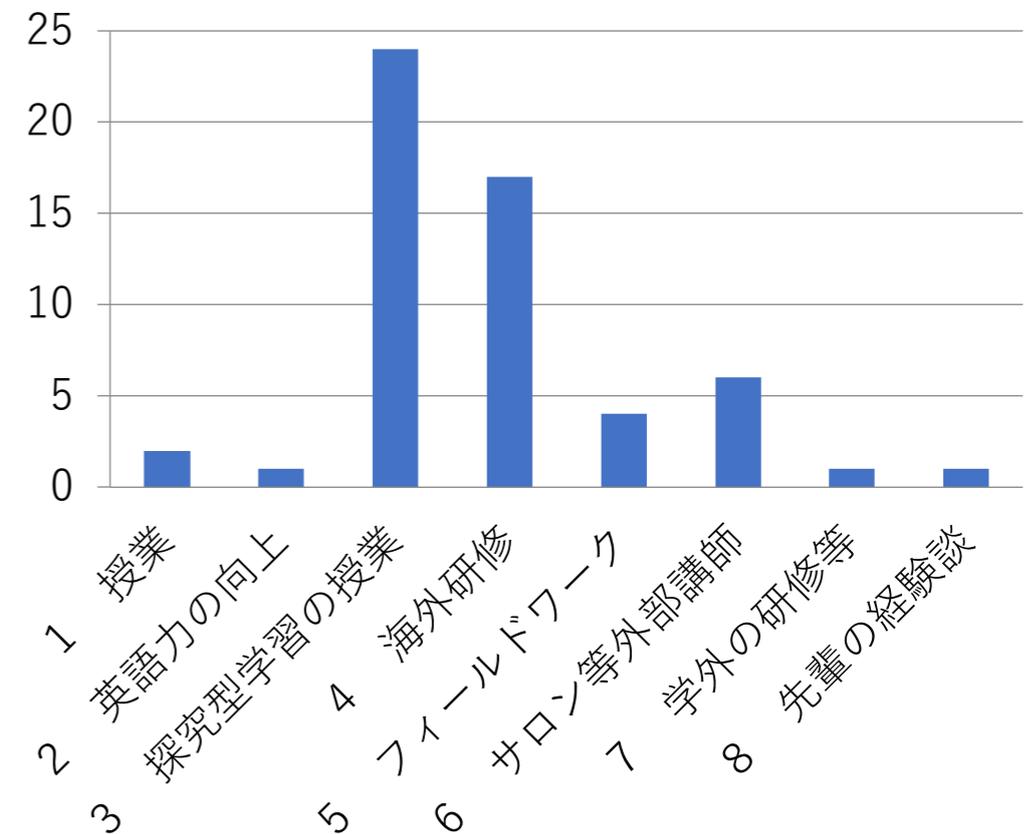
SGT No.21 「普段見過ごしがちなことにも疑問を持ち
様々な場面から問題や課題を見つける」

SGT No.24 「正解, 不正解がはっきりしない問題に対
しても解決策を見いだそうとする」

対象: 「とても思う」, 「思う」と答えた生徒

● 成長実感の要因分析 2 リフレクションシート 研究ノート等

取り組み内容とリフレクションを文字化



問題発見・問題解決力を高めた要素
(国際クラス第1学年)

所属	年 科 組 番	氏 名	
----	---------	-----	--

1 あなたが伸びたと感じるスキルやマインドセットを2つまで選んで、それに関して以下に記載してください。
内容は、あなたが体験した出来事(エピソード)や感じたことなど、できるだけ詳しく書きましょう。

S1	論理的思考力・批判的思考力：筋道を立てて考え、多面的に分析する力	M1	アイデンティティ（自分・ルーツ・国など）を理解し確立しようとする意思
S2	ICT活用能力：コンピュータを活用する技能	M2	多様性を理解し共感する気持ち
S3	コミュニケーション力・コラボレーション力：人と繋がり、協力して目的に向かう力	M3	摩擦・批判・失敗を恐れない気持ち
S4	発信力・行動力：自ら動いて仲間を増やし実現に向かう力	M4	変化を受け入れ、それに対応しようとする意思
S5	課題発見力・課題解決力：課題を見つけ、解決するための具体的方策を検討・実行できる力	M5	リーダーシップをとることへの意思

A (:) ←上記の記号とキーワード(例「M1：アイデンティティ」など)を記入

そのスキルやマインドセットはどんな時・どんなことをする中で伸びたのではないかと感じましたか。(時・場所・状況・あなたの行動)

その時、何に苦労したり、どんなことを感じたり考えたりしましたか？(障壁と感情・思考)

その時のあなたの行動によって、状況はどう変化しましたか？ また、その際のあなたの実感はどのようなものでしたか？(状況の変化とその時の感情・思)

さらにその力を伸ばすには何をどうすればいいと思いますか。(次の課題と対策)

B (:)

そのスキルやマインドセットはどんな時・どんなことをする中で伸びたのではないかと感じましたか。

その時、何に苦労したり、どんなことを感じたりしましたか？

その時のあなたの行動によって、状況はどう変化しましたか？その時のあなたの実感はどのようなものでしたか？

さらにその力を伸ばすには何をどうすればいいと思いますか。(次の課題と対策)

2 あなたが今後伸ばしたいスキルやマインドセットは何ですか (:)

内容分析 ：リフレクション シート 研究ノート

ワークシートにご記入ください。

(1) ゴール設定

校訓？ SGHでのビジョン？

(2) 育てたい生徒像

(3) SWOT

生徒や教員の強み・弱みは？

学校環境の強み・弱みは？

本校の場合

(1) ゴール設定

校訓：知徳体

ビジョン：挑戦する学校・突破力のある生徒

(2) 育てたい生徒像

5つのスキルとマインドセット

(3) SWOT

強み (Strengths)：真面目・素直・安定志向…

弱み (Weaknesses)：主体性が低い・競り負ける
安全志向…

機会 (Opportunities)：附属・立地・保護者
他校とのつながり

脅威 (Threats)：附属・県民性

ワークシートにご記入ください。

3) 行っておられる評価方法

4) 効果があったと感じておられる取組

シェア

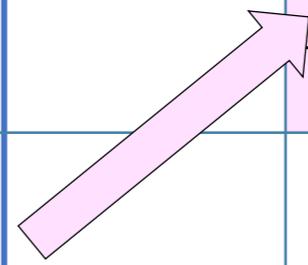
育てたい生徒像を
出ししてください

育てたい生徒像 8	育てたい生徒像 1	育てたい生徒像 2
育てたい生徒像 7	育てたい 生徒像	育てたい生徒像 3
育てたい生徒像 6	育てたい生徒像 5	育てたい生徒像 4

基礎思考
抽象

實踐思考
具體

			具体的要素 8	具体的要素 1	具体定要素 2		具体的要素 1	具体的要素 2
			具体的要素 7	育てたい生徒像 1	具体的要素 3		育てたい生徒像 2	
			具体的要素 6	具体的要素 5	具体的要素 4			
				育てたい生徒像 1	育てたい生徒像 2			
				育てたい生徒像				



それらの要素を図るのには
どういった手法が有効でしょうか